

**令和5年第9回庄原市教育委員会議
令和6年度使用小学校用教科用図書採択 議事録**

- 1 日 時 令和5年8月17日(木) 午後1時40分から
午後5時30分閉会
- 2 場 所 庄原市役所 本庁舎5階 第1委員会室
- 3 出席委員 教 育 長 牧原 明人
教育委員 横山 和明、立花 有佐、捻金 宏昭、渡部 要
- 4 欠席委員 なし
- 5 出席職員 教育部教育総務課長 毛利久子
教育部教育指導課長 高淵直哉
教育部教育総務課総務係長 小田康行
教育部教育指導課指導係長 小谷綾子

6 議事録（概要）

教育長	<p>日程第4、議案第39号、令和6年度使用小学校教科用図書の採択について ただ今から会議を非公開とする。後日議事録を公開することについてお諮りする。 よろしいか。</p>
委員（全員）	<p>よい。</p>
教育長	<p>それでは、日程第4、議案第39号、「令和6年度使用小学校教科用図書の採択について」事務局より議案の説明をお願いします。まず、国語から提案をお願いします。</p>
事務局	<p>議案第39号、「令和6年度使用小学校教科用図書の採択について」関係法及び関係規則に基づき、教育委員会の決定を求めるものである。「小学校用教科用図書採択に係る調査研究答申」の各教科の総合所見の欄を読んで提案する。</p> <p>まず、国語の総合所見である。単元の導入に見開き2ページを使い、学び方が分かりやすく示されている。「見通す」過程では、学習モデルとなるような文例や話例、うまく進んでいない話合いの例を示し、課題意識を引き出しているなど、主体的な学びにつながる例示が多い。「情報のとびら」のページが関連する単元の前後に配置され、発達段階に応じた情報活用のポイントを示している。学校図書館機能の利活用のページ数が3者の中で一番多い。以上の理由から、総合的に判断して、「東京書籍」が最も適している。審議をお願いします。</p>
教育長	<p>ただいま事務局から、選定委員会における答申を踏まえた提案があった。これについて、質問、意見があればお願いします。</p>
立花委員	<p>3者を比較すると、中学校・高等学校へ向けての言葉の力については「東京書籍」が特にポイントを置いて、学び方を分かりやすく示している。「もちもちの木」の初めに提案されているところもすごく分かりやすい。絵もきちんと表示されている。「言葉の力」を育てる「図書館の機能」が第1～6学年まで紹介されている。最後は資料館・博物館への見学につなげているところがよい。中学校・高等学校へ向けての言葉の力を育成していける「東京書籍」がよい。</p>
教育長	<p>教科書自体について、「東京書籍」「光村図書」は、第5・6学年は1冊、「教育出版」のみ、上下巻となっている。文字は「東京書籍」は教科書体で、大きな文字が使用されている。「光村図書」は文字が濃いという特徴がある。大判なのが「教育出版」である。2年間の単元の配列をみた時に、本市では複式学級がある。「東京書籍」「光村図書」が同時期に同領域の学習ができる配列になっている。「教育出版」はそうになっていない。学習単元の系統性については、「東京書籍」は冒頭の単元の下に「思い出そう」として全学年の関連単元が示されている。「光村図書」も冒頭の単元の下にこれまでの学習が示されている。「教育出版」はない。国語の用語の整理としてどの者も巻末にきれいに整理されている。遜色がない。説明文と文学教材をみると、まず、説明文の単元の工夫では、「光村図書」は、各学年、最初の説明文単元では、教材文の前に、短い教材文が挿入されている。また、「教育出版」でも、各学年最初の説明文単元では、教材の前に、短い教材文が入っているが、これらは「東京書籍」にはない。説明文について、例えば、第1学年の「比べる乗り物」で比較する。「東京書籍」は「い</p>

ろいろなふね」、「光村図書」は「じどうしゃ」、「教育出版」は「はたらくじどうしゃ」とあり、一般的にはよく見ている「じどうしゃ」が理解しやすいと思われる。また、テーマを決めて「働く」に「焦点化」することもよい。「東京書籍」で「ふね」を取り上げた背景には、山間地の子どもたちは「ふね」を見ることはないので、「ふね」を学ぶ、あるいは発展的に扱える要素も含めてと考えた時には評価ができる。いずれの3者も学年のねらいに沿っていろいろな工夫がされている。それから文学作品については、定番のいろいろな教材を比較した。「大きなかぶ」、「スイミー」、「お手紙」、「もちもちの木」、「一つの花」、「ごんぎつね」、「大造じいさんとがん」など、多くの作品が共通して取り上げられている。まず「大きなかぶ」で「東京書籍」、「教育出版」には絵本をもとに訳されているが「光村図書」にはその訳がない。接続語で比較すると、「東京書籍」「教育出版」は、「ところが」「それでも」「まだまだまだまだ」「まだまだ」「それでも」「やっとかぶは抜けました」となっている。一方「光村図書」は、「けれども」「それでも」「やっぱり」「まだまだ」「なかなか」「とうとう」「とうとうかぶは抜けました」、という順番になっている。かぶを抜いていく順番も違う。「東京書籍」「教育出版」は、後ろ側から順に引っ張るというスタンスである。「光村図書」は、かぶの近くのおじいさんから引っ張るとなっている。子供が文章を読んだ時どのような受け止めをするか考える必要がある。第3学年、例えば「もちもちの木」では、「東京書籍」と「光村図書」は、見出しをつけて整理をしている。「教育出版」は、番号で整理をしている。人物の性格を想像しようというのが、「東京書籍」である。「光村図書」は、「豆太はどんな人物か」、「教育出版」は、「豆太を臆病だと言っているのはだれか」と問うており、視点と焦点が違う。また、ページをめくったときに花が開くようになっており、きれいに感じる工夫を「東京書籍」がしている。「教育出版」のほうは臆病とか勇気という言葉を取り上げている。第4学年「ごんぎつね」では、「東京書籍」は、気持ちの変化、出来事の変化、なぜ変化したのかを問い、絵も非常に優しい。「光村図書」のほうは、ごんと兵十のかかわり、気持ちの変化、物語の結末の感想という展開になっているが、絵がグロテスクである。きつねが悪いんだというような感じの絵になっている。「教育出版」は、ごんが日記を書いたらどうかという、別の視点で、ごんの立場のストーリーを展開し、ごんの気持ちの移り変わりを考えていくようになっている。「大造じいさんとがん」では、がんという字が「光村図書」は片仮名を使っていて原文ではそうっていない。「東京書籍」「教育出版」は前文がないが「光村図書」は前文がある。文章の書き方は、「東京書籍」「光村図書」は敬体で、「教育出版」は常体である。挿絵の違いは前文があるかないかによって変わっていると思われる。だから、大造じいさんが若い狩人ではないということは前文があれば分かり、違いがある。図書の紹介は各者とも、いろいろな本を紹介している。古典の作品も多く紹介されており差はない。さらに感じたことをあげると、第1学年では、「東京書籍」はすぐれている。最初の「とんとんとん何の音？」等、あいうえおを楽しく学ぶリズム、声のものさし等、非常に分かりやすい。鉛筆も右手左手が書いてある。「光村図書」は、「聞く・言う・書く」があり、「書くことは楽しいな、歌に合わせてあいうえお」

<p>横山委員 捻金委員</p>	<p>と示されている。また、右手のみが、書いてある。「教育出版」は、絵のみで具体性に欠けるところがある。また、右手のみになっているという違いがある。最後に、点字の扱いが「東京書籍」にはないが「光村図書」「教育出版」には、点字に関することが載っている。「光村図書」は第5学年、「教育出版」は第4学年に説明がある。これらのことなど、様々に考えたときに、私も「東京書籍」が適していると考えます。</p> <p>現行が「東京書籍」であり、絵も優しい、特に変えることはないと考えます。</p> <p>「東京書籍」はスタンダードなイメージである。「光村図書」は他者にはない物語があった。</p>
<p>渡部委員</p>	<p>「教育出版」は上下巻にしており、荷物の重さのことを考えると、配慮はされている。それぞれ配列は学年で違うが、物語文で大切なところは継続してどの者も取り上げられている。また、「東京書籍」には広島のおうたが取り上げられていてよい。</p>
<p>教育長 委員（全員） 教育長</p>	<p>その他意見はないか。</p> <p>ない。</p> <p>それでは、選定委員会の答申のとおり、国語は総合的に判断して、「東京書籍」ということで決定してよいか。</p>
<p>委員（全員） 教育長</p>	<p>よい。</p> <p>国語は、「東京書籍」に決定する。次に、書写について、事務局より提案をお願いする。</p>
<p>事務局</p>	<p>書写の総合所見である。低学年において、文字を書く姿勢が分かりやすく示され、右手左手が同じ分量で取り上げられている。左利きの児童も書きやすいような工夫がされている。教材文字が大きく見やすい。各学習過程の視点が示されており、「書写のかぎ」で課題解決的な学習を実施するための工夫がされている。さらに、他学年とのつながりを意図した系統的な内容となっている。</p> <p>以上のことから、総合的に判断して「東京書籍」が最も適している。また、国語においても、「東京書籍」を選定しているため、内容の関連がある「東京書籍」を選定することが望ましいと考える。審議をお願いする。</p>
<p>教育長 横山委員</p>	<p>事務局の提案について質問、意見があればお願いする。</p> <p>国語科との関連で「東京書籍」ということもある。「光村図書」だけが左手のかき方がない。今は、左利きの比率が大きくなってきている。丁寧な指導が必要である。「光村図書」は猫が出てくる。いかがか。私は「東京書籍」か「教育出版」がよいと考える。その中で「東京書籍」は、書き方の指導のところで、的確である。</p>
<p>捻金委員</p>	<p>私も「東京書籍」がよい。習字を書くのに、左利きの仕方が提示してある。右左がバランスよくあるのがよい。</p>
<p>教育長</p>	<p>私は「教育出版」がよいと考える。国語の教科書が「東京書籍」だから、書写を「東京書籍」にしなければならないことはない。表紙を見てもらったら分かるように、「教育出版」は学年ごとに学ぶポイントが出ている。また、左利きについても記載がある。なぞり書きでは、「教育出版」は点線になっている。「光村図書」は、途中止めはある。「東京書籍」は数多くの「はらい」はあるが、「とめ」が不明確になっている。第1学</p>

	<p>年の横書きに「マス」があるのが「東京書籍」「教育出版」であり、「光村図書」はない。小さい「っ」があるのは「教育出版」である。それから、第1学年の漢字の筆順の時に、「東京書籍」「光村図書」は上下左右と来ている。「教育出版」は上下左右、それに横から縦ということで、「十」「土」「七」がある。それから「はがき」「手紙」「原稿用紙」はいずれの者もあるが、「東京書籍」は「原稿用紙」しかない。毛筆の扱い方で、墨のすり方があるのは「東京書籍」「光村図書」である。「教育出版」は「墨の液の入れ方」「含ませ方」の説明がある。また、「紙」「墨」「すずり」について第6学年だが、示してあるのは、教育出版だけである。「光村図書」の最後の著名人の氏名、サインがきちっと書いて最後にシャッと書くのはどうかと思う。「教育出版」の裏表紙全てに学年、鉛筆の持ち方があるし、全体に消しゴムの使い方も書いてある。事務局の方で何か違いがあるれば説明してほしい。</p>
事務局	<p>毛筆の扱い方、墨のことで、「東京書籍」「光村図書」は墨のすり方は示してある。「教育出版」は「墨液の入れ方」、それから「墨の含ませ方」について触れている。ここに触れているのは「教育出版」のみ。今現在の子供たちの習字の学習の状況を考えると、実際にすずりで墨を作ってから書くという作業は、授業の中では、時間的に難しい。「墨液」の使い方が分かりやすい。</p>
渡部委員	<p>国語科と書写が同じ出版社でなくてもよいと聞いたが、国語科は「東京書籍」であるので、書写も「東京書籍」がよいと考える。「文字を書く姿勢」を、低学年は低学年用にきちんと示されている。書写に入ったとき「東京書籍」の方が丁寧に指導されている。「教育出版」には鉛筆の持ち方も全学年に入っているとあったが、全部の学年になくともポイントを押さえればよいと思う。</p>
立花委員	<p>国語科が「東京書籍」であり、書写も「東京書籍」がよい。特に高学年では国語の教科書とのつながりの中で勉強ができるのではないかと。</p>
教育長	<p>意見を集約すると、「教育出版」と「東京書籍」の特色などが出ているが、総合的に判断して、「東京書籍」に決定してよいか。</p>
委員（全員）	<p>よい。</p>
教育長	<p>それでは、書写は「東京書籍」に決定する。次に、社会について、事務局より提案をお願いする。</p>
事務局	<p>社会の総合所見である。「つかむ」「調べる」「まとめる」「いかす」という学習の進め方を示しており、児童が主体的に学習に取り組めるように工夫するとともに、単元全体を通しての「問い」が示されており、興味・関心を高めることができる。本文記述と関連する分かりやすいイラストや写真、資料等を示しており、児童の理解が深まりやすい。第6学年は政治・国際編、歴史編の2冊構成になっており、分野を意識した学習を可能にし、中学校への接続が図られたものとなっている。以上の理由から、総合的に判断して「東京書籍」が最も適している。審議をお願いする。</p>
教育長	<p>事務局の提案について質問、意見があればお願いする。</p>
教育長	<p>まず私から述べる。教科書自体のことから、「東京書籍」のみが、第5・6学年、上下巻の2冊である。第3学年の文字は大きい。「教育出版」「日本文教出版」は、第5</p>

	<p>学年第6学年1冊ずつである。「教育出版」は第3学年の文字は濃く読みやすい面がある。それから、「選択」という単元が設定してある。第4・5学年を比較すると、第4学年は「東京書籍」1「教育出版」8「日本文教出版」2、第5学年は「東京書籍」2「教育出版」5、「日本文教出版」5である。「教育出版」は「選択」が非常に多い。これは、資料としては大変有効に活用ができるという良さがある一方で、学習となると、これを全部するという事はなかなか難しいため困難な面があるとも考えられる。ただ、資料としては大変有効だと考える。学習の流れでは、ほぼ同じである。「見方・考え方」は全て、提示してある。「日本文教出版」のみが「見方・考え方」を働かせ、考える視点を示してある。単元全体を通して、問いがあるのが、「東京書籍」と「日本文教出版」である。「教育出版」は、「次につなげよう」を示している。「東京書籍」第3学年は、インタビューや写真が非常に多い構成である。「教育出版」では、「社会ガイド」というのがあり、第4学年では非常に興味付けがあるように、各県をクイズで、興味喚起を促している。「日本文教出版」は料理から各県を学ぶようにしている。日本の国土領土の問題については、「教育出版」が1番詳しく述べており、憲法改正のこともきちんと記してある。あと2者は、少し触れていると感じた。さらに、歴史の縄文と弥生を比較したときにぱっと見開きで示してあるのは「東京書籍」で分かりやすい。「教育出版」は、縄文と弥生が2ページにわたり、表を見て裏と比較しなければならないという差がある。歴史上の戦前戦後あたりの写真のところで、「教育出版」194ページから220ページにかけて、これが、白黒写真であるものが、AIによって分かりやすくするため、その当手を思い起こさせたカラーに変更して編集してある。良い面もあるが、一方では、そこだけカラー編集するのかどうかという疑問がある。領土問題では若干「東京書籍」が弱い。他の意見はどうか。</p>
横山委員	<p>「東京書籍」が2冊に分かれており、分量としては少ないと思うが、そつがなく、写真等がすごくきれいである。進め方はほぼ同じ。個人的には「日本文教出版」がまとめる前の提起があるなど、そこからいろいろな学びができるようにしている。領土問題の尖閣の問題については、「教育出版」「日本文教出版」は、「もともと日本の領土で問題はないが、最近中国が主張している」としている。そう書くと何か問題があるのかと思ってしまう。「東京書籍」は、「中国は主張しているけれども、領土の問題は何もない」と断言しているところがいい。縄文と弥生では「東京書籍」が分かりやすい。縄文時代が特に最近どんどん変わってきた。昔の縄文時代というイメージが変わってきて、最近世界でも取り上げており、日本独自のユニークな時代である。そこが、対比で分かりやすく書いてあるのは大変いい。</p>
渡部委員	<p>竹島で言う「教育出版」は、抗議をしているというのを入れてない。「東京書籍」「日本文教出版」は抗議を続けていることを入れている。</p>
横山委員	<p>北方領土と竹島はロシアと韓国が実行支配している状況がある。個々の中ではそのような言い方しかできない。ただ、尖閣は、いろいろな経緯があるにしても、完全に日本が支配し、最近ではそれを覆そうと中国がやっているため、このような毅然とした書き方がよいと考える。</p>

教育長	他にどうか。写真の扱いで、白黒の写真が、カラーで表されている。このように、子供に当時を思い起こさせることができることがよいのか。
捻金委員	「教育出版」がよいと考える。白黒は古いのは分かる。AIでつくったのが正しいか分からないが、当時の雰囲気が鮮やかに蘇ると思う。
横山委員	いわゆる何事も問題がない写真である。例えば江戸時代の江戸城の雰囲気がわかるのはいい。当時の色が、今にして思うとそのような色だったのだなと分かる。しかし、戦時中の戦争の写真は、変にカラー化されていると作られた、手が加わった感じがする。
立花委員	戦争の写真に関しては、抵抗がある。児童のことを考えると、カラーでない方がよいと考える。「教育出版」は歴史を学ぶ意義や考察が出てくるのがよい。「東京書籍」も第3学年で地図の使い方が丁寧でよい。授業の進め方もよい。領土問題は存在しないという考えで統一出来たら「東京書籍」がよいと考える。
渡部委員	「東京書籍」がまとまっていてよい。第6学年の上下巻でコンパクトにまとめられている。歴史と政治経済が分かれているのは中学校への接続に向けてよい。「日本文教出版」「東京書籍」も広島を取り上げた学習内容がある。QRコードで調べられ、活用がしやすい。
教育長 委員（全員）	いろいろ意見が出たが、総合的に判断して「東京書籍」ということでよいか。 よい。
教育長	それでは、社会は「東京書籍」に決定する。次に地図について、事務局より提案をお願いします。
事務局	地図の総合所見である。簡潔な各地方図とは別に広く見渡す地方図があり、入門期の児童にとって分かりやすく使いやすい。資料図もテーマごとに見開きでまとめてあり、簡潔で分かりやすい。また、自然災害の発生地を示すだけでなく、防災への取組のページが充実している。索引の見方も工夫されており、児童にとって使いやすい地図帳である。以上の理由から、総合的に判断して「帝国書院」が最も適している。審議をお願いします。
教育長 教育長	事務局の提案について、質問、意見があればお願いします。 では私から述べる。紙の質がどうかという面を見た。紙の質は「東京書籍」がいい。「帝国書院」の方が少し悪い。重さは「帝国書院」365グラム「東京書籍」は350グラムで、軽い。「東京書籍」の方が、質がよくて軽い。一方地図の中身を見たときに、「日本」のことを「日本国」ときちんと書いてあるのは「帝国書院」。きめ細かい内容について、大きな字で分かりやすい内容で整理されているのは、「帝国書院」である。「東京書籍」は、情報は多いが、文字や色が濃くて雑然としているような感じが否めない。倍率は、「帝国書院」は160万分の1、100万分の1、50万分の1、そして、地方も拡大した図がある。「東京書籍」は、100万分の1と50万分の1、都会のみ拡大をされている。理解しやすい見方まとめ方をしているのは、「帝国書院」ではないかと考える。「世界地図」に関わって、ヨーロッパとアメリカが隣に見えるように工夫しているのが、「帝国書院」である。普通は日本が中心で離れているように見えるものしか

	<p>ないが、アフリカ大陸からアメリカがつながっているようにしている。高低の色具合が分かりやすいのも「帝国書院」である。「東京書籍」の方はやはり雑然としている感じがする。緯度や経度が分かりやすい説明図があるのは、「帝国書院」。「東京書籍」は、標高のみとなる。それから、巻末資料の年代において、産業の年代は、「帝国書院」は、2019年で「東京書籍」は2020年であり、「東京書籍」の方のデータが新しい。一方、国土の資料を見てみると、「帝国書院」が2021年、「東京書籍」は2020年であり、「帝国書院」の方が、新しいデータである。世界の国土は、2020年でどちらも同じ。また、SDGsで示す国連の要所が、「帝国書院」に書かれている。災害はどちらもきちんと入っているが、「帝国書院」のほうは防災という視点があることから、「帝国書院」がよいと考える。</p>
横山委員	<p>私は「帝国書院」の方が、地図が見やすいと考える。広域と、地域ごとの大きさを詳しく見る地図と、2本立てになっているため見やすい。書き方も違う。ただ、日本列島を載せてほしい。日本列島は「東京書籍」にある。縮尺の関係で沖縄は入っていない。これがあると北海道の広さ感と、広島県の広さ感が違うということが分かる。書いている縮尺が違う。庄原と広島の間隔感と、札幌と函館の間隔感がどれだけ違うのか、これを見ないと分からない。「帝国書院」はヨーロッパの国が色分けしてあり、分かりやすい。もっと詳しくは、中学校・高校の地図帳で見ればよいので、やはり、小学校はどこにどの国があるかがわかればよい。よって「帝国書院」がよいと考える。</p>
立花委員	<p>第3学年には「帝国書院」が見やすい。地図への抵抗がない。学習に入りやすいと思う。信頼性もある。</p>
渡部委員	<p>「東京書籍」も日本全図がある等、工夫が見られる。同じ100万分の1の地図を見ても広島県では、「帝国書院」には、庄原・東城・総領などの地名があるのに対し、「東京書籍」では比和まで入っている。情報が多く掲載しているのは「東京書籍」である。子供たちが見やすく使いやすい。入門期の児童が使いやすいのは「帝国書院」である。</p>
捻金委員	<p>「帝国書院」がシンプルでよいと感じた。「東京書籍」は雑然としたイメージがある。</p>
教育長	<p>他に意見はないか。</p>
委員（全員）	<p>ない。</p>
教育長	<p>地図は「帝国書院」に決定してよいか。</p>
委員（全員）	<p>よい。</p>
教育長	<p>それでは、地図は「帝国書院」に決定する。次に、算数について、事務局より提案をお願いする。</p>
事務局	<p>算数の総合所見である。2つの数量関係などに着目して捉えさせるために数直線を用いて、基準量を1とみて相対的な大きさで比べ、数量の関係を適切に読み取って判断する力を養うことができる。プログラミングに係る単元は第4学年以上となっているが、第1・2・3学年においては、具体的な体験を伴う学習の設定がしてある。デジタルコンテンツの量が豊富であり、答え合わせもできるため、自己評価ができ、主体的な学びに資する。以上の理由から総合的に判断して、「東京書籍」が最も適してい</p>

<p>教育長 立花委員</p>	<p>る。審議をお願いする。 事務局の提案について質問、意見があればお願いします。 「東京書籍」が分かりやすくいいと思う。「啓林館」はキャラクターで発見する内容になっている。デジタルコンテンツのスマートレクチャーで質問することができるが、数の基準値を1とみて相対的に見るということや言葉の理解が難しいと感じた。便利なようで、提示の仕方や言葉遣いが難しかった。</p>
<p>教育長</p>	<p>第1学年の別冊がある者となない者がある。ないのが、「学校図書」「教育出版」。あとは別冊があるという大きな違いがある。別冊と導入時の対応がしやすいということについて事務局からどうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>別冊は「東京書籍」「大日本図書」「啓林館」「日本文教出版」がある。A4判で大きく分かりやすいのが、「東京書籍」「大日本図書」「啓林館」である。ブロックを用いた学習がしやすくなっている。入門時に数の概念を理解するのに、数字と読み方と具体物をそれぞれ対応させることが大切になる。その整理を分かりやすくしているのが「東京書籍」である。</p>
<p>教育長</p>	<p>導入時に算数のその3点の扱いがしやすく分かりやすいのが「東京書籍」ということだが他の視点についてはどうか。</p>
<p>横山委員</p>	<p>今の子供たちの印象として例えば、何%や何割について等の割合が苦手である。「東京書籍」が丁寧で分かりやすい説明である。割合がどんなもので、実際に表すとどうか等、丁寧に示している。「啓林館」「学校図書」も分かりにくい。</p>
<p>教育長</p>	<p>「教育出版」だけが、「もとにする量」を「基準量」という表現にしている。「啓林館」は確かに、関係図や線分図など分かりにくい。「学校図書」は4マスもある。数直線は「東京書籍」がうまくまとめている。「円と球」の単元を見たときも、円の表現は、「東京書籍」が分かりやすい。説明でも「啓林館」は「コンパスで書いたような丸い形」、「日本文教出版」は「上でかいてあるのが丸い形」と表現している。「学校図書」が発展問題等、算数に興味をもっている児童に最もチャレンジしてほしい教科書の中身が多く入っている。庄原の子供の実態を照らし合わせたときに、少しレベルの高い問題にチャレンジできるかどうかということを総合的に見たときに、今の学力調査の実態から少し疑問は残るが、本当はそういう子がどんどん出てきて挑戦してほしいという思いはある。「学校図書」の発展問題で優れているのが、第5学年の下の164ページに、高校まで見通した問題が出ている。また、第6学年に中学校へのかけ橋問題もある。こういうところに興味関心をもった子は、「学校図書」がふさわしいと思う。もちろん、基本の問題も整理している。基本は「東京書籍」「大日本図書」のほうが分かりやすい。間違えた時の指導について、二重線できちんと印をして、消しゴムを使わずに間違いを残すという指導がしてあるのも、「東京書籍」「大日本図書」「学校図書」だった。総合的には、「東京書籍」がまとまっているという意見が多かったので、算数は、「東京書籍」に決定してよいか。</p>
<p>委員（全員）</p>	<p>よい。</p>
<p>教育長</p>	<p>それでは、算数は「東京書籍」に決定する。次に、理科について、事務局から提案</p>

事務局	<p>をお願いする。</p> <p>理科の総合所見である。巻頭の見開き2ページに学習の進め方や問題解決の過程を示しており、分かりやすく、主体的に学習に取り組む工夫がなされている。また、問題に対する予想と計画などの例示が詳細になされており、科学的な言葉や概念を使用して自分の考えを論述する活動につながる学習内容となっている。さらには、他教科の学習を理科に生かす工夫や、巻末で「理科の見方・考え方」を示し問題解決する力を高める工夫などがなされている。以上の理由から、総合的に判断して「啓林館」が最も適している。審議をお願いする。</p>
教育長 立花委員	<p>事務局の提案について質問、意見があればお願いする。</p> <p>「啓林館」が予想して実験するという理科の流れが一番見やすく、子供たちが学習の流れにスムーズに入っていけると思う。教科書の大きさが「東京書籍」等は大判なので、高学年になり実験等の際に、教科書が小さい方が適している。暮らしとリンクしているということで、最後に他教科との学習と示していることもあり、「啓林館」が適している。ずっと使用している「啓林館」で理科をもっと深めていけると思う。</p>
教育長	<p>「啓林館」「東京書籍」はよく似ている。「啓林館」は、まとめを確かめるとして自分のノートの形で作っている。「東京書籍」も、振り返りということで、自分のノートの形で作っている。「啓林館」は「東京書籍」と比べて、まとめ方が簡単過ぎる。各者検討したが「学校図書」が非常にすぐれている。唯一「学校図書」が資質能力の育成を取り上げている。単元の冒頭で資質能力のことを3つに絞って、そして終わった時に、そのどれが身に付いたかという振り返りをきちんと整理したのは「学校図書」だけである。一方で問題を提起しながら進めて、そのときに答えが次のページにあってきちんと確認できるようになっているのは「啓林館」である。「～はどうですか」と投げかけて、答えを自ら調べることや、QRコードを見れば理解できるという組み立てになっているのが「東京書籍」である。言葉に着目すると、例えば、「植物の成長」のところでは、「啓林館」「東京書籍」を比較すると、「東京書籍」は、「高さ」という言葉を使う。「啓林館」は「草丈」という言葉を使っている。「草丈」の方がいいのではないか。葉っぱの裏から水が出てくることを「東京書籍」は、小さな穴とって、「啓林館」は、気孔とっている。「学校図書」は、小さな穴（気孔）としている。さらに、ハウセンカの水を吸い上げる師管・道管ということがあるが、「啓林館」は赤いインクにつけて、「東京書籍」は青いインクにつけて、それが吸い上げたら回りから色がつく。「学校図書」は、真ん中の茎を縦に半分に切って、両方に入れる。吸い上げた方に色がつくというように分かりやすくしている。別な単元であるが、「学校図書」は風の動きに風車を使っている。あとの者は自動車を使っている。視覚的にみると、車が見やすい。ただ、「学校図書」はそのあとをゴムの強さによって自動車が動くということから、車でもできることを示しているため解決できると考える。巻末に器具の使い方、理科室の使い方がまとめてあるのが、「東京書籍」「学校図書」である。「啓林館」は単元ごとにまとめをしている。巻頭言や表紙の裏のところに、ノーベル賞を受賞した方の、言葉を示しているのが「学校図書」である。「啓林館」は「あっ」「えっ」</p>

	<p>などの感嘆符で示している。「学校図書」は、詳しく言葉を説明している。たまご幼虫さなぎ成虫、等で「完全変態」や「不完全変態」という用語を示している。そのような言葉があることで興味・関心をより高められる。</p>
横山委員	<p>最近災害が多い。「学校図書」では天気だとか、台風が全部載っている。その中で、台風の接近や天気の移り変わりは身を守る上で、非常に大事なこと。「学校図書」が1番分かりやすい説明をしている。小学生なので、あまり情報が多くあっても、理解が難しい。写真がうまく使っており、どのように、台風が日本に接近してくるのか、自分の身の回りにどのようなことが起こるのか、視覚でも分かりやすく説明してある。</p>
捻金委員	<p>「学校図書」がいいと思う。写真が多く分かりやすい。最後に器具の使い方の整理をまとめられてあっている。教科書というか図鑑を見ているイメージがある。興味を引かれた。</p>
渡部委員	<p>「啓林館」は筋道立てて順序良くできている。理科の学力向上にもつながっている。継続して「啓林館」を使うのが望ましいと考える。</p>
教育長	<p>「啓林館」は、基本を中心にまとめてある。「学校図書」で庄原の子に、理科の力を定着させ、伸ばすのはどうか。資質能力の育成を取り上げているのが「学校図書」である。</p>
立花委員	<p>理科離れが進んでいるので、理科的なことに興味をもつ子ともたない子が分かれる。そこからいくと、やはり流れが分かりやすく入りやすい、楽しく理科が学べる「啓林館」がよい。</p>
渡部委員	<p>理科は学力的に落ち着いているので、新しい教科書にチャレンジするのもよい。理科は専科担当が多いのか。</p>
事務局	<p>専科があるのは2校のみ。担任が指導することがほとんどである。その中で、教材研究による指導力向上は必要である。教科書をベースにしたときに、教材研究は教科書が変われば特に必要となり、力量を高める一つのきっかけになる。市内では算数の研究が多い。理科を研究教科にして取り組んでいくことは現状ではほとんどない。授業の組み立てや単元の構成を考え、子供たちの力を高めていく必要がある。</p>
渡部委員	<p>理科は準備も必要。どちらにせよ教材研究は必要。新しいものに取り組む必要もある。ただ準備に時間をとって、大変ということもあるが、いいチャレンジになるかもしれない。</p>
立花委員 教育長	<p>現場の先生が意識を高めないと難しさはある。 庄原の理科というのは強みがあるから、「学校図書」にチャレンジしてはどうか。今回はチャンスである。総合的に判断して「学校図書」ということでよいか。</p>
委員（全員） 教育長	<p>よい。 それでは、理科は「学校図書」に決定する。次に、生活について、事務局から提案をお願いします。</p>
事務局	<p>生活の総合所見である。児童に問いかけ、答えを示さずに、疑問や興味をもたせる展開となっており、自分で実際に体験、活動して主体的に学べる構成となっている。「いきものずかん」や「かつどうべんりてちょう」など巻末の資料も分かりやすく、</p>

<p>教育長 教育長</p>	<p>充実している。全体として、教科書から学ぶのではなく、教科書をきっかけとして主体的な学びを促すことをねらいとしている。以上の理由から総合的に判断して「東京書籍」が最も適している。</p> <p>事務局の提案について質問、意見があればお願いします。</p> <p>中身とかいうのはほとんど同じである。昆虫で言うと子供たちが身近にいつでもふれあうことができるのが、「セミ」「チョウ」「トンボ」が定番と考えるが、その取扱いはずいぶん差がある。「東京書籍」では書き方の手紙のことが加わっている。四季を通じて流れとすれば、生き物、野菜、遊び、作る、探検、施設巡り等まんべんなくある。また、学校から身の回りの町へと分かりやすい展開になっている。「かつどうべんりてちょう」というものもあり、資料も最後にまとめて分かりやすい。手紙の書き方を、下の方にまとめているのもよい。でも、夏なのに、「セミ」では「アブラゼミ」が1回しか出ない。「モンシロチョウ」や「シオカラトンボ」もない。「バッタ」や「ダンゴムシ」はある。昆虫とそうでないので分けている。「啓林館」は音というまとめ方をしている。夏の音、秋の音、冬の音と言う視点でまとめておりそのことは他にはない。</p> <p>「学校図書」は「ナナホシテントウの雫」が示してありきれいである。「光村図書」は別冊があり、家族に対してというところもある。</p>
<p>渡部委員</p>	<p>扱っている内容で、昆虫で、どこにでもいるものを扱っているのは「東京書籍」「啓林館」である。中には飼えないようなものを扱っている者もある。野菜も「東京書籍」は「あさがお」や「トマト」等どこでもできるものが入っている。「学校図書」などは色々チャレンジできるように作っている。具体的にできるものが載っている「東京書籍」もよい。第1学年に入ってすぐ「上」の教科書で幼児教育や理科との接続でも良い。</p>
<p>横山委員</p>	<p>生活科を通して理科や社会に発展していく。興味もてるのが一番いい。大きさはどうかわからないが、「東京書籍」が楽しくてとっつきやすくよい。</p>
<p>捻金委員</p>	<p>生活科の内容はいろいろな教科の導入部分のようだと感じた。どの者もよい。</p>
<p>立花委員</p>	<p>身近なものを取り上げて人と人との関係性も尋ねていって、触れ合いも作っていけるようになっているので「東京書籍」がいい。</p>
<p>教育長</p>	<p>総合的に判断して「東京書籍」ということでよい。</p>
<p>委員（全員）</p>	<p>よい。</p>
<p>教育長</p>	<p>生活は「東京書籍」に決定する。次に、音楽について、事務局より提案をお願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>音楽の総合所見である。QRコードや学習過程の示し方が、主体的な学びや個別最適な学びにつながっている。鑑賞曲や古典芸能では、様々なジャンルの音楽を取り上げていて、教科書を使ってたくさんの音楽に触れることができる。鑑賞と表現を結び付けることのできるワークシートで、何を聴き取り、何を考えるのかがわかりやすい。以上の理由から、総合的に判断して、「教育芸術社」が最も適している。審議をお願いします。</p>
<p>教育長</p>	<p>事務局の提案について、質問、意見があればお願いします。</p>

教育長	<p>「教育出版」の方がいいと思う。理由は、まず表紙などいろんなトータルで音楽の魅力を伝えている。例えば、第3学年「教育出版」は、「リコーダー」「バイオリン」「フルート」第4学年は「体で伝える」第5学年が「舞台から未来へ」という「狂言」がある。そして第6学年が「辻井伸行さんの響きピアノ」と表紙の裏側に示している。一方「教育芸術社」の方は第3学年「リコーダー」第4学年が「うた」第5学年が「ピアノ」第6学年が「指揮者」となっている。魅力を伝えるという観点では「教育出版」がよい。次に、定番のどちらも共通している歌を比較した。第1学年では「うみ」第2学年「夕やけこやけ」第3学年「富士山」第4学年「もみじ」第5学年「こいのぼり」第6学年「おぼろ月夜」「我は海の子」とある。例えば「こいのぼり」の図というか写真というのは、「教育出版」のほうが、見開きできちっとしており雄大な様子が分かる。単なる絵なのか写真できちっと表しているのかでは、大きな違いがある。合唱では、二部合唱の曲が多いのは「教育出版」である。第2学年から一部導入をしている。一方、「教育芸術社」のほうは二部合唱の曲が少なく、第3学年から一部導入、つまり1学年早いのが「教育出版」である。楽器の種類の扱いが「教育出版」35「教育芸術社」が27であった。それから、英語の歌に関しての違いがある。「教育出版」は全ての学年で英語の歌が入っているが、「教育芸術社」は第3・4・6学年のみ。日本の歌の扱いも「教育出版」が豊富。「国歌：君が代」の扱いのことについて、丁寧に説明してあるのが、「教育出版」。「教育芸術社」は少し単純。「教育出版」が何かの場面の国歌斉唱の場面、そして「さざれいし」とセットであるのに対して、「教育芸術社」の方は、「さざれいし」だけ扱っているのが、第3・4学年、あとは、何かの場面で斉唱しているという違いが見られる。曲のことや、日本の歌、共通以外のものについても「教育出版」がよい。</p>
捻金委員	<p>「教育出版」がよい。定番の曲で、どちらも大きな差異はなかったが「教育出版」は子供たちになじみのある曲がある。「教育芸術社」はマニアックな曲があるように思う。「教育出版」の英語など、親しみやすく音楽を楽しむ感じが強い。</p>
渡部委員	<p>どちらも差異はない。「教育出版」は、楽器の扱い、国歌の扱いの良さがある。</p>
横山委員	<p>国歌の扱いが違う。「教育芸術社」は、国歌はどの国にも当然あって、その1つとして「君が代」があるという紹介がしてある。「教育出版」は、あくまで日本の国歌は「君が代」でこのような成り立ちがあるというように説明が書いてある。</p>
立花委員	<p>「教育出版」は、「鍵盤ハーモニカ」の写真が実物大で、押さえ方は「みかんをつかむような感じで」と分かりやすく書いている。「鍵盤ハーモニカ」で「いろいろな音を見つけよう」と書いている。「どんな音がするのか」と「音を見つける」では児童のとり方が違う。「教育出版」は理解できる言い方をしている。「教育芸術社」の言い方には違和感あり。「教育出版」の第6学年「滝廉太郎」の歌やクラシックの取り上げ方が良い。</p>
教育長	<p>総合的に判断して「教育出版」ということでよいか。</p>
委員（全員）	<p>よい。</p>
教育長	<p>それでは、音楽は「教育出版」に決定する。次に、図画工作について、事務局から</p>

事務局	<p>提案をお願いする。</p> <p>図画工作の総合所見である。表紙がテーマ性（ex. 第5・6学年「心をひらいて」）のあるものとなっており、教科の導入が容易になるとともに、各単元を貫く活動の見直しをもたせることができる設定となっている。QRコードの内容が充実している。指導者向け、児童向けの資料が豊富であり、児童の主体的な活動を促すとともに、その後の活動の広がり期待できる。以上の理由から、総合的に判断して「開隆堂」が最も適している。審議をお願いする。</p>
教育長 渡部委員	<p>事務局の提案について質問、意見があればお願いする。</p> <p>QRコードが充実しているのは指導者にとって使い勝手が良い。第1・2学年の上の教科書を見ると、入門期は「日本文教出版」が入りやすい。「開隆堂」は説明から入っている。「開隆堂」は粘土が、各学年、素材がかわらず載っている。「日本文教出版」は工夫しながら粘土が載っており、内容等を考えると「日本文教出版」が使いやすい。</p>
事務局	<p>第1・2学年入門期で、「開隆堂」は粘土をしている。「日本文教出版」は造形遊びの出合いとして、運動場に出て砂場で土を使ってダイナミックな作品作りをしている。造形の出合わせ方の違いがある。「日本文教出版」は単元毎に鑑賞の観点と絡めながらやっている。「開隆堂」はそれぞれ独立している。</p>
立花委員 教育長	<p>「日本文教出版」は1つ1つに目標がある。これは大切にしたいところである。</p> <p>「日本文教出版」は学習のめあてをマークでコンパクトな表現にしてある。「開隆堂」はキャラクターを使って強調するところに赤線や下線を引いてあり分かりやすい。領域分野の分け方が違っている。「日本文教出版」は造形遊び活動、絵に表す活動、立体に表す活動、それから工作する活動、鑑賞する活動となっている。学習指導要領どおり活動を示してあるのが「日本文教出版」である。一方、「開隆堂」は、単独で造形遊び、絵、立体、工作、鑑賞という表現になっており、正式には活動をつけるべきだと思う。振り返りは、「日本文教出版」がよく考えさせる振り返りである。「開隆堂」は「はい」「いいえ」で答えられる振り返りとなっていることが多い。墨のところでは、「日本文教出版」は、墨と水の世界の作品がメインとなっているが、「開隆堂」は子供の顔がメインである。つまり、全体的に「日本文教出版」は作品で勝負する。</p> <p>「開隆堂」は子供の顔で勝負するというようにアピールの仕方がなっている。自分の作品を鑑賞するところでは「日本文教出版」は絵から音楽をとという、逆の発想がある。水墨画で言うと「開隆堂」の方は、作品があまりないという面がある。「光のプレゼント」では、「日本文教出版」は、言葉のセンスがいい表現を使ってあるが、「開隆堂」は、用意した材料を重ねるだけに終わっていないかと思う。巻末では、「日本文教出版」は美術カード、あるいは材料と用具の引き出しという形で、非常にうまくまとめており、「気を付けよう」「片づけ」がある。「開隆堂」は、学びの資料で安全と片づけで、安全に力を入れている。「日本文教出版」は子供の写真にマスク顔が入っている。</p> <p>「開隆堂」ではマスクの写真がない。最近の子供の様子を実際に撮られたのが「日本文教出版」だろう。マスクをとった子どもの表情がいいということになれば「開隆堂」。作品に重きを置けば、「日本文教出版」である。全体で見たときに、「日本文教出版」</p>

委員（全員）	<p>は鑑賞教材が多い、「開隆堂」は工作が多い。子どもの露出活動の紹介がよく出ているのは「開隆堂」であり、作品に重きを置いて、複合領域となっているのが多いのが「日本文教出版」である。総合的に判断して「日本文教出版」ということでよいか。</p>
教育長	<p>よい。</p>
事務局	<p>それでは、図画工作は「日本文教出版」に決定する。次に、家庭について、事務局から提案をお願いします。</p>
事務局	<p>家庭の総合所見である。2者を比較したところ明確な差異がなく、次の通り第1候補、第2候補とする。落ち着いた色合いで実習の手順が示されていて、実物大の写真もあるなど分かりやすく、実習中にいつでも確認できる。生活の見方・考え方の4つの視点がクローバーで示され、題材で何を考えたらいかががわかりやすい。防災やSDGsにつながる題材を取り上げられている。活動や振り返りのワークシートがあり、授業に生かしやすい。これらのことから、第1候補は、「開隆堂」とする。鮮やかな色合いのイラストや写真が掲載されている。小題材ごとに「めあて」が示されている。生活の課題と実践に対応した内容を掲載しており、実践の進め方や課題例を示している。これらのことから、第2候補は、「東京書籍」とする。審議をお願いします。</p>
教育長	<p>事務局の提案について、質問や意見をお願いします。</p>
教育長	<p>まず、表紙を見たときに、生活の様子が分かり親しみやすいのが「開隆堂」である。学年でも学びのステップということで、整理されているのは「開隆堂」である。「東京書籍」のほうは1日の生活から入るが、「開隆堂」はきっかけをクッキングから入っているのがよい。整理整頓というところがあって「開隆堂」は2ページから「東京書籍」の方はすぐ整理した姿がある。単元が多いのは、「開隆堂」である。違いとして、「弁当」「お節料理」「おむすび」があるのは、「開隆堂」。「東京書籍」にはない。「キャリアインタビュー」を行って最後にまとめているのは「開隆堂」。「東京書籍」の方は「プロの声」でその都度あり、分かりやすい。活動で「深める」ところは「開隆堂」は19か所「東京書籍」は15か所である。全体的に見て「開隆堂」が良いと考える。</p>
渡部委員	<p>中身を見ると、「開隆堂」の方が豊富である。同じ単元を見ても「開隆堂」の方が詳しくなっていて使いやすい。家庭科は教科書を見て活動することが多いので詳しい方がいい。</p>
教育長	<p>総合的に判断して、家庭は「開隆堂」としてよいか。</p>
委員（全員）	<p>よい。</p>
教育長	<p>家庭は「開隆堂」に決定する。次に、保健について、事務局から提案をお願いします。</p>
事務局	<p>保健の総合所見である。ユニバーサルデザインの情報やタブレット使用に関する情報がピクトグラムやイラスト、言葉によって多く記述されている。教科書がワークシート形式となっており、全ての学習過程の中に自分の予想や挿絵からの気づきを記入する欄があり、振り返り時に活用が容易であることから、自ら学びを進めることができる。以上の理由から、総合的に判断して「学研」が最も適している。</p>
教育長	<p>事務局の提案について、質問、意見をお願いします。</p>
教育長	<p>6者について、単元別や配列等を見て、大体皆整っていた。「大修館」は、生活の中</p>

	<p>の保健を探そうというテーマで、「学研」は「健康ってどんなこと」ということで、「大修館」はステップスリーで課題から4つの活動で、まとめになっている。4つの活動とは、「話し合い」「考える」「調べる」「やってみる」からまとめになっている。「学研」は学習の課題から、「振り返り」「話し合い」「学びを生かす」という形になっている。「大修館」は初めに、タブレットの使用というのがある。インターネット犯罪では被害を防ぐということやスマホの依存について、取り上げている。「学研」も簡単ではあるがそういうものも取り上げている。性の多様化については、「学研」が、第3・4学年で触れている。「大修館」は、内容自体が分かりやすい。図の中で見付け、気付かせるというようなことを入れながら、事故やけが病気の理解について分かりやすい展開となっている。</p>
渡部委員	<p>「学研」では内容的に使いやすいものが多いことと、書く活動を多く取り入れている。教科書に書きながら学習を深めていける。保健ではノートなど作らないと思うので、教科書に書き込みながら振り返ることができるので活用しやすい教科書である。「大修館」は小さい文字が多いが、説明が詳しい。</p>
立花委員	<p>「学研」は書き込みがあるからページ数が多い。性の多様性のことについては相談窓口にある。自然と学習の流れに沿って書き込みができるので「学研」がいい。</p>
教育長	<p>市の課題としてタブレット等の使い方がある。「大修館」はトップにタブレットの使い方をのせている。</p>
立花委員	<p>「学研」の高学年に、インターネットトラブルについてがある。</p>
教育長	<p>それでは、総合的に判断して「学研」で選定をするということでしょうか。</p>
委員（全員）	<p>よい。</p>
教育長	<p>それでは、保健は「学研」に決定する。次に、英語について、事務局から提案をお願いします。</p>
事務局	<p>英語の総合所見である。ワークシートが豊富に取り入れられるとともに、特に、英語で「書くこと」のできる部分が多くあり、4線で書き出しや書く方向を矢印の点線で示し、書くことに抵抗をなくす工夫がしてある。「Can do の樹」により、明確な目標設定と、それに対応した振り返りを可能にしている。読む活動や音声を聞いて比較する活動を多様に取り入れ、基礎基本の定着に係る指導の工夫がある。以上の理由から、総合的に判断して「東京書籍」が最も適している。審議をお願いします。</p>
教育長	<p>事務局の提案について、質問、意見をお願いします。</p>
教育長	<p>まず、何のためにという目的が明確に書かれているのは「東京書籍」のみである。「開隆堂」も目的が出てくる。スモールステップのやり取りができていくかという点についても「東京書籍」「開隆堂」がすぐれている。やり取りの流れについては「開隆堂」には示されていない。ワンパターンであるが、やり取りが示されているのが、「教育出版」「光村図書」「啓林館」である。書く活動やなぞり書きについては「東京書籍」は、書く方向が分かるような矢印で示されている。「ピリオド」のなぞり書きが離れたところがないのでいい。一方で「開隆堂」は、書く活動もきちんとできている。「ピリオド」のなぞり書きが文末にしてあるのがどうか。「光村図書」は「ピリオド」のなぞ</p>

	<p>り書きがないのでよい。紙の質が悪いのは「三省堂」である。別冊は「東京書籍」は第5・6学年で1冊、基本は学年ごとで「教育出版」「啓林館」はない。別冊が活用の仕方によっては有効である。1冊というのは、「東京書籍」のみである。イラストを押し、個別に聞くことができるのが、「東京書籍」「開隆堂」「啓林館」である。「教育出版」は、「がまくん」が出ており子供たちにとって、ストーリーが分かりやすい。将来こういう教材が掲載されればよいと思う。それで最終的に「東京書籍」「開隆堂」がよいと考えた。2者を比較した時に、「東京書籍」は、話す流れがきちんと説明されており明確であること、表紙や会話の中に流れが示してあること、別冊が1冊で活用しやすいこと、やり取りを続けるための表現例が豊富にあることがよい。「開隆堂」は、単元のテーマが横書きで示されている部分に日本語訳があるため、「予習ができる」ということにつながる。文字が太くて読みやすく、多く英文が示され、様々な言い方の勉強ができることがよい。しかし、苦手な子は、「こんなに英文があるのか…」と思うかもしれない。また、現在と過去のイラストが分かりにくいという点もある。日本語訳がないのは、授業の中で理解していくものであるためなくてもよいという意見もある。現に中学校の教科書にも日本語訳はない。でも、少しでもある方が苦手な子供にとっては分かりやすい。</p>
横山委員	<p>小学校の英語であるので、嫌いになってほしくない。「東京書籍」は安定しているし、書く部分も多いし、とっつきやすい。単元のところの日本語訳についてだが、絵があるのでやることは伝わってくる。やはり「東京書籍」がよい。</p>
教育長 委員（全員）	<p>では総合的に判断して、英語は「東京書籍」に決定してよいか。</p> <p>よい。</p>
教育長	<p>それでは、英語は「東京書籍」に決定する。最後に、道徳について事務局より提案をお願いします。</p>
事務局	<p>道徳の総合所見である。庄原にゆかりのある中村哲さんを取り上げており、自分に近づけながら考えることができる。テーマのユニットで目次と教材文まわりを色分けしてあり、目次を見て学習するのにわかりやすい。いじめについて、教材文のほかにも、見開き2ページで、法律にも触れながら考えさせるようになっている。二次元コードも使いやすく授業に生かしやすい。授業の流れに沿ったワークシートのため、プリントアウトしたものをファイリングし、学習のあしあととすることができる。以上の理由から、総合的に判断して、「東京書籍」が最も適している。審議をお願いします。</p>
教育長 教育長	<p>事務局の提案について、質問、意見ををお願いします。</p> <p>「中村哲」さんがあるから、「東京書籍」ということにはならないと思う。「光文書院」も扱っている。「中村哲」さんは、間接的には庄原に関係があるという上で協議をしなければならない。別冊があるのは、「日本文教出版」だけである。指導者にとって別冊があれば、使いやすいと思う。「光村図書」は教材数が不足している。35ないといけないところが、34しかない。このことは前回も同じように少ない者があり、問題となった。また、「光村図書」の第5・6学年の振り返り感想は、記述欄が1行のみである。</p>

立花委員	いじめについてははっきりと記述されているのが、「東京書籍」である。「東京書籍」第1学年「ゆうきをだしてだめ」という教材がある。小さい時期の方が言いやすい、相手のことを考えて気持ちを推察する力も育てないといけない。いじめについて考えることをはっきり出してよいのかどうか、疑問はあるが、シンキングエラー、共感性の無さが、いじめの原因と思えばこのような項目があればよいかとも思う。
渡部委員	「日本文教出版」は別冊の道徳ノートがあるが、どこの学校も今は道徳ノートを作成しているのではないかと思うので、特に無くてもよいと思う。あることによってしぼられることもある。ただし、これは、保護者にも見てもらえると考えると有効なものである。「東京書籍」は二次元コードでワークシートが使えたり、朗読が聞けたりする。身近な教員が編集委員になっていたり、今道徳で使っている心情円盤とか様々な例を取り上げていたりするのでそのまま使える良さもあり、「東京書籍」がよいと考える。
教育長	「東京書籍」は今あったような良さもあるし、終わりの「考えよう」という部分は中心発問ともう一つあるということで、非常に考えやすくなっている。ただ、タイトルのところに、主題があることで、学習する内容が子供に分かる。「日本文教出版」は、テーマを決めて、さらに焦点化する流れであり、教え込むパターンになっていくと思う。指導力のある先生には不必要である。最低限これだけ押さえようと思い、カチッとした展開をしようと思えば「日本文教出版」という選択もある。そのような主題が全く無いのが「学研」である。ただ、題のところに主題ではないが、コメントがある。「光文書院」もパターンが決まっているような部分がある。「教育出版」は、反省を求めるような振り返りがしてある。「光文書院」は教材が多くあり選択ができる。
横山委員	全ての教科書に「手品師」が掲載されている。ほとんどの者が、「誠実を教えるよ」と示してある。「学研」は最初にコメントが書いてあるが、「手品師」のところでは「きっとだね、きっと来てくれるね」と書いてある。これは誠実に引っ張っていかうというわけではない。主題については、考えさせなければいけないと思うし、1時間で終わらせなければならぬ、1時間で主題までたどり着かなければならぬ難しさはあるが、「学研」がよいと思う。
教育長	中心発問は「東京書籍」がよい。指導者からすれば、「学研」は指導者の力量を発揮できる。その1時間の授業を受け、例えば2か月後に、思い出すというような授業。悩んで振り返って自分はどうかと考えさせる授業を展開するためには、主題を載せるのはどうかと考えると「学研」がよい。
立花委員	「学研」は新しい話題がありとつきやすい。第1学年でも取り組みやすい教材がある「学研」がよい。
教育長	総合的に判断し、道徳は「学研」でよいか。
委員（全員）	よい。
教育長	道徳は、「学研」に決定する。小学校における教科書の採択は以上である。確認をしておく。教科と発行者名をお願いする。
事務局	国語が「東京書籍」、書写が「東京書籍」、社会が「東京書籍」、地図が「帝国書院」、

教育長	<p>算数が「東京書籍」、理科が「学校図書」、生活が「東京書籍」、音楽が「教育出版」、 図画工作が「日本文教出版」、家庭が「開隆堂」、保健が「学研」、英語が「東京書籍」、 道徳が「学研」である。</p> <p>日程第4、議案第39号、「令和6年度使用小学校教科用図書の採択について」採決 を行う。ただ今、事務局でまとめて確認をしたが、賛成の委員は挙手をお願いする。 (全員挙手)</p> <p>全員賛成なので、日程第4、議案第39号、「令和6年度使用小学校教科用図書の採 択について」採決された。</p>
-----	--